

## 名蔵湾保護水面管理事業調査（要約）

杉山 昭博

本調査結果についてはすでに「昭和62年度名蔵湾保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No. 103）で報告したので、ここでは調査内容と結果を要約して記載する。

### 1. 目的および内容

水産動植物の繁殖保護育成のため海草藻場を保全し植物の繁茂、底生動物と葉上動物の分布、アイゴ類幼魚の藻場における成長、保護水面周辺海域での定置網漁獲量、既設人工礁での魚類等の蟄集状況および水質の各調査を実施して藻場における生態的メカニズムを把握することに努めた。

### 2. 要約

(1) 藻場の季節的变化を把握するため定点で海草の生育範囲と密度を調べた。生育範囲の今年度の年間変動は少なく全体平均は90,152m<sup>2</sup>で、保護水面に占める割合は13.3%である。なお、密度は夏季高くなる傾向がみられた。

(2) 1987年8月24日と12月1日に底生動物調査を行い線虫類、定在目、および遊在目が多く出現した。  
(3) 1987年5月1日から1988年1月7日まで隔月1回葉上動物調査をして遊在目と端脚目は周年みられ、また長尾類とクマ目もしばしばみられた。

(4) アイゴ類幼魚の藻場への来遊を前年度と同様に調査し、今年度のシモフリアイゴの来遊は2群、アミアイゴは3群、ハナイゴは2群、およびブチアイゴは1群に分かれていることが推測された。

(5) 昭和62年1月から12月までの名蔵湾における定置網漁獲量調査を行い年間漁獲量は約19トン、主要漁獲物はコノシロ類、サヨリ類、カマス類、ヒメジ類、ハタ類、メジナ類、クロサギ類、ミナミクロダイ、フェフキダイ類、フェダイ類、コショウダイ類、アジ類、ベラ類、アイゴ類、ハリセンボン類、およびイカ・タコ類で、年間漁獲物の約30%をアイゴ類が占める。

(6) 1987年8月4日に人工礁調査を行い約16種類、200個体の魚類等が蟄集しており、ヨスジフェダイ、ロクセンフェダイ、アジ類（幼魚）、ミツボシクロスズメ、およびツバメウオ等が比較的多くみられた。

(7) 1987年4月20、8月5日、および12月11日に水温、PH、比重、DO、COD、PO<sub>4</sub>-P、NH<sub>4</sub>-N、NO<sub>2</sub>-N、およびNO<sub>3</sub>-N量を調査した。結果は前年度とほぼ同じである。

：水産資源保護対策事業